

観光ルート開発モデル事業（コンシェルジュ対象）
事業報告書 概要版

対象地域：西多摩地域（あきる野市、檜原村）、南北多摩地域（日野市、調布市、武蔵野市）
事業実施者：株式会社 JTB

令和2年1月

現状・課題

多摩地域は、豊かな自然や多くの観光資源が存在しているものの、1箇所ですべて外国人旅行者を集客できる観光資源は少なく、都心からの移動時間を有効に使える観光ルートもないことから、旅行者の目線で旅行者が自ら考えて観光できるような観光資源の発掘と観光ルート開発を行い、外国人旅行者や国内旅行者の誘致を促進することを目的とする。

実施内容

1. コンシェルジュ対象の日帰りモニターツアー（無料）の実施

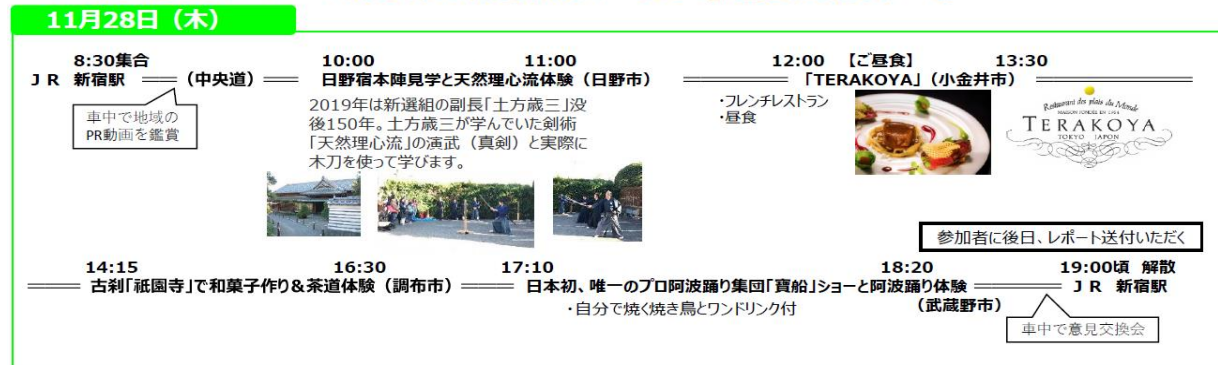
(1) ツアー企画内容

- 参加対象者：都内および横浜等の主要都市のホテルコンシェルジュを中心とした方々
- 実施地域：自然が豊富な西多摩地域と、ユニークな歴史文化の南・北多摩地域

< 西多摩エリア > 「西多摩の自然・風土が生んだ歴史ロマン・文化継承を五感で体感ツアー」



< 南多摩エリア > 「南多摩『和と洋のハーモニー』歴史文化ツアー」



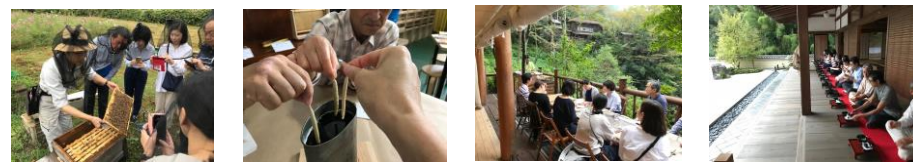
(2) 申込受付

- 「日本コンシェルジュ協会」会員を中心に、募集チラシの申込書をメールまたはFAXにより受付。

(3) ツアー実施内容

① 10月8日(火) 「西多摩の自然・風土が生んだ歴史ロマン・文化継承を五感で体感ツアー」

- 参加者数：10名
- 移動手段：貸切バス(中型)
- 現地ガイド：神野氏(裏山ベース代表)
- 体験内容：都内最大の蜂場見学、ミツロウキャンドルづくり体験、人里もみじの里「寺カフェ岫雲」坐禅体験
- 昼食：1日1組限定のグランピング施設「ウッドランドボシー」でグリル料理フルコース



(みつばちミュージアム) (ミツロウキャンドル作り) (ウッドランドボシー) (寺カフェ岫雲)

② 11月28日(木) 「南多摩『和と洋のハーモニー』歴史文化ツアー」

- 参加者数：14名
- 移動手段：貸切バス(中型)
- バスガイド：ニューつくば観光
- 体験内容：ラストサムライ「新選組」の剣術「天然理心理心流」演武体験、静の和文化「和菓子作り&茶道体験」、動の和文化「阿波踊り集団『寶船』ショー」
- 昼食：世界の食の賞「World luxury Restaurant Awards」にノミネートされた「TERAKOYA」で洗練されたフランス料理をご賞味。

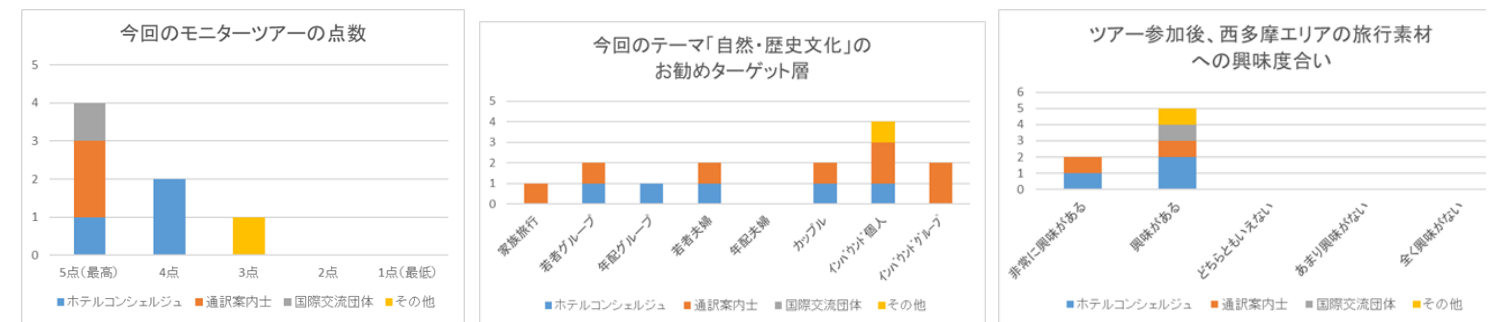


(天然理心理心流演武体験) (和菓子作り体験) (TERAKOYA) (阿波踊り体験)

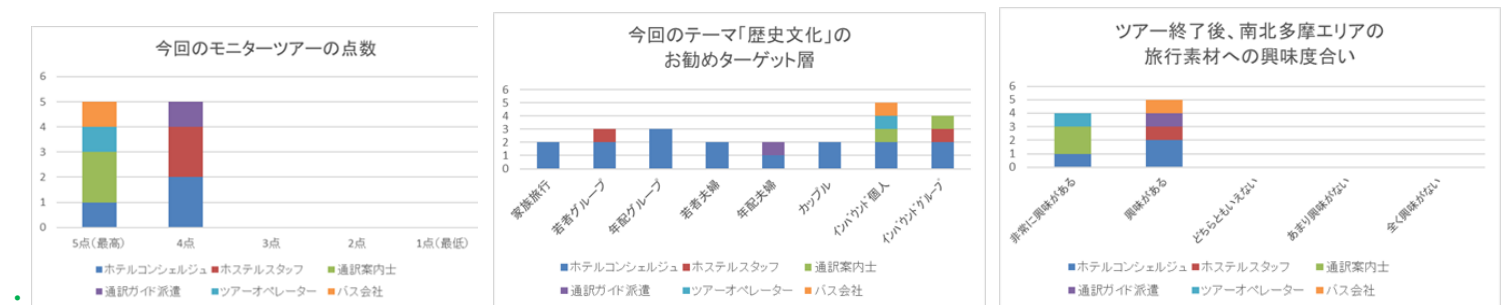
(4) アンケート調査内容

参加者にアンケート調査票(6枚)にご記入いただくことで、多摩地域の観光コンテンツのポテンシャルを把握し、今後の対策を検討していく。両コースともツアー評価は高く、旅行素材への興味度合いも高い。

① 「西多摩の自然・風土が生んだ歴史ロマン・文化継承を五感で体感ツアー」



② 「南多摩『和と洋のハーモニー』歴史文化ツアー」



事業成果

1. 多摩地域の特色を活かしたモニターツアーのコース設計

対象者であるコンシェルジュを中心とした方々に、宿泊されるお客様に多摩地域をご紹介いただけるように実際の現場をご覧いただくことが目的であった。そのため、観光素材も欧米豪の長期滞在の訪日外国人が日帰りで楽しんでいただけように、比較的に富裕層を想定したデラックスな食事と体験要素を盛り込んだコースとした。

2. 参加者の満足度の高いアンケート結果

体験コンテンツを中心に高い満足度となり、参加者ご自身のお客様へご紹介いただける観光素材であることが分かった。

課題

1. 都心から日帰りで行けるガイド付き周遊ツアーの商品化が必要

多摩地域では、多くの集客のある観光コンテンツが少ないため、複数の小規模な観光コンテンツを魅力的なテーマで繋ぎ合わせた周遊ツアーが必要である。

2. シェアサイクル等の二次交通の整備の進展を期待

既存の路線バス、コミュニティバス、タクシーに加え、シェアサイクル、シェアタクシー等の多様な二次交通の整備とそれをITで繋ぐMaaSの進展が必要である。

3. 受け入れ環境の整備と人材育成

近年、開発した着地型旅行においては、申込受付体制、現地ガイドのノウハウ、旅行の運営管理にいたる一連の受け入れ環境が未整備であったり、整備されていても経験値が低いため、今後は受け入れ環境の整備と人材育成により、旅行の品質をさらに高める必要がある。

今後の展開

1. 26市・3町・1村を抱える広大な多摩地域の魅力的な観光資源の広域連携

単に地続きだから隣町と連携するのではなく、歴史文化や産業、自然、食等の共通事項を見出して、中長期的視点による広域連携が必要である。

2. 自治体・観光協会・商工会等の多様な組織連携

観光分野の裾野は広く、様々なニューツーリズムに対応すべく観光協会が中心となって商工会・自治体・各種団体との連携は必須であり、こうしたネットワークを構築することで新たなコンテンツ開発が可能となり他地域と差別化できる。

3. 新たな観光コンテンツの開発

多摩地域の隠れた観光資源をテーマとストーリーで磨き上げて魅力的な観光コンテンツにしていくことが重要である。